

お花の栽培シリーズ「ペゴニア(四季咲き)」

2009年5月	阜月(さつき)・菖蒲月(あやめづき)・午月(ごげつ)・早苗月(さなえつき)・橘月(たちばなつき)・多草月(たかさつき)・五月雨月(さみだれつき)	●春の花盛りの時期
新芽がいつせいにのびて、瑞々しい空間を楽しめます。草花の成長盛りのこの時期は、生命の神秘を感じるたくさんの発見があるはず。草花たちの成長を毎日見守ってあげましょう。		
庭木の作業	・ツツジは花が終わった時期に整枝します。	
草花の作業	・春まきの草花の移植、定植。 ・アサガオの種まき。	

今月の誕生花	アヤメ・カーネーション・スズラン・ボタン	
今月の花	デージー(ヒナギク) 花言葉/平和、希望、美人(白)無邪気(赤)無意識	
	デージーは「デイズアイ(日の眼)」が語源だといわれており、ギリシャ神話の時代から、ヨーロッパでは栽培されていました。朝がきて陽光を受けると花が開き、太陽が沈んで夜になったり、曇りの日には花が閉じるという性質から、こう呼ばれるようになりました。『希望』という花言葉も、こんなところから生まれたのでしょうか。	
	日本には 明治初期に渡来し、小さくてかわいい菊の形容として、ひな菊と呼び親しんでいました。また、花期が非常に長いことから、延命菊とも呼ばれました。	
	元々は現在のような八重咲きではなく、一重の白花だったといいますが、現在では丁字咲き、丁字八重咲きのものもあります。つまり 美しさを求める改良が 随分とされてきたことになります。シャスターデージーのほうが本当の名前で、俗名のデージーは誤用だとする考え方もあります。シャスターデージーとは、カリフォルニアのシャスタ山の 万年雪にちなんだ名前です。	
原産地はコーカサス地方から西欧。キク科ヒナギク属の一年草～多年草。草丈は20～40cm。開花時期は1～5月。最盛期は3月～5月。葉の形状は、へら状卵形で全縁、有毛、上部は被針形葉で葉柄あり。花色は、淡紅、紅、白など。英名デージー(Deisy)。別名延命菊(えんめいぎく)、長命菊(ちようめいぎく)、雛菊(ひなぎく)		
早春の可愛らしい花です。花壇一面への植え込みやバスケットを使ったアレンジなどにすると、いっそう引き立ちます。寒さにも強く丈夫です。		

お花の栽培シリーズ

今月の花

ペゴニア(四季咲き)



花期がとても長く楽しめるため、たいへん人気があります。種類がとても多く、四季咲きのほか、11~6月に咲くリーガースペゴニア、球根ペゴニア、木立性ペゴニア、根茎性ペゴニアなどがあります。球根ペゴニアは花色が豊富で、青色系をのぞけばあらゆる色があります。夏咲きですが暑さに弱く、日本の夏ではうまく咲きません。

木立性ペゴニアは、茎がまっすぐに立ち上がって伸びる品種の総称です。根茎性ペゴニアは、太い根茎が地面をはって伸びる種類です。根茎性ペゴニアは葉に特徴があり、ハート型、菱形、盾型などいろいろな形があります。また、葉の色もあらゆる緑色のほか、チョコレート色、銀白色、赤、斑点などの模様入りとたくさんの種類があり、室内植物として楽しまれています。

市販されている四季咲きペゴニアは栽培しやすくなっていますが、本来乾燥気味を好み、加湿にすると腐ってしまいます。水は表土が乾いたらたっぷりとするようにします。真夏は少し控えめにします。

また高温期に葉に水がかかると傷む原因になりますから、必ず株元へ与えるようにします。

よく分枝しますから、草丈が伸びすぎて姿が悪くなったものは、どんどん切り詰めるようにします。

● 植え替えのやり方



根茎性ペゴニアは水ゴケの単用でもよい

●挿し芽のやり方

挿し芽は長さを調節する



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育状況	花期											
置き場所	屋内の日当たりのよい場所	屋外の日当たりのよい場所					屋外の半日陰/露地栽培も日よけをする		屋外の日当たりのよい場所		屋内の日当たりのよい場所	
水やり	4~5日1回 ※冬季と夏季は乾燥気味に育てる	表土が乾いたら与える(1日1回)					1日1~2回		表土が乾いたら与える(1日1回)		4~5日1回	
肥料	月に3~4回液肥を与える					月に3~4回液肥を与える						
病虫害	***** うどんこ病・ボトリチス病の予防にベンレート2000倍液を散布する											
作業	花がら摘み 花が終わったら、花茎を手で摘み取る		植え付け		挿し芽		植替え/株分け		切り戻し 伸びすぎた茎を切り詰める		植替え	